

子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査） 平成23年度年次評価書

1. 概評

エコチル調査は、10万人の子どもを対象に、環境と健康の関連を追跡するものであり、その成否は、目標通りのリクルートと、フォローアップにおける高い追跡率の確保にかかっている。

リクルート開始から1年弱の時点で行われる今回の年次評価は、リクルートにおける課題及び優良事例を収集・分析し、残る期間でのリクルートの改善に役立てるとともに、フォローアップにおける課題を早期に把握することに主眼を置く。

リクルートの状況としては、3年間で10万人の参加者を確保するためには月間2,700人のリクルートが必要であるのに対し、2,000～2,300人のペースで推移していることから、リクルートの加速化が必要な状況である。このような中で、目標をほぼ100%達成しているユニットセンター、さらには超過達成しているユニットセンターもある。このようなユニットセンターでは、医療機関（機関の長、医師、スタッフを含む。）や自治体等の協力体制が確立しているとともに、医療機関ごとの目標達成状況の把握・分析が行われている。また、ユニットセンターにおける調査実施体制が確立しており、リサーチコーディネーター（以下、「RC」という。）等のスタッフの士気を高める工夫もなされている。リクルートの目標数の達成に至らないユニットセンターにおいても、状況の把握・分析等の充実により、リクルート数が伸びてきている例も見られる。このような優良事例を他のユニットセンターに広げていくことが必要であり、特に、医療機関等ごとの声かけ率、同意率を定期的に把握することは、効果的なリクルートの前提である。

リクルートの状況の芳しくないユニットセンターを中心に、協力医療機関において、対象となる妊婦のすべてに声をかけていない事例が見られた。RCの不在時等、やむを得ない場合もあるが、声をかける妊婦の選別が行われた場合、調査のバイアスとなるため、対象となる妊婦全数に声をかけるという原則にのっとる必要がある。

フォローアップについては、まだ始まったばかりの段階であり、大きな問題点は見られなかったが、転院者のフォローアップに関する工夫等を行っているユニットセンターも存在し、このような事例を広めていくとともに、未回答者に対する再依頼の方法の在り方等についても、早い時期から検討し、周知を図ることが必要である。

2. 実施機関別評価

2-1 環境省

- 調査が所期の成果を収めるためには、長期間にわたる予算と体制の確保が不可欠であり、そのための努力を継続すべきである。

- 予算・体制の確保のためにも、また、リクルート率・フォローアップ率の確保・向上のためにも、エコチル調査に関する認知度・理解度の向上が極めて重要である。このため、さらに工夫した広報活動を展開するとともに、調査の進捗状況や集計結果、成果等を、絶えず国民に伝えていくことが重要である。
- 追加調査の財源の確保やデータの分析等に当たり、関係省庁との具体的な連携を図るべきである。
- WHOや諸外国のコホート調査との意見交換を積極的に行い、さらなる連携を進めるとともに、世界最大規模の出生コホート調査として、リーダーシップを発揮していくことが期待される。

2-2 コアセンター

- エコチル調査の実施主体として、各種委員会を運営して調査内容や現場の課題等を検討し、全国のユニットセンターと緊密な連携を図りながら全体をとりまとめている。
- データシステムのメンテナンス業務やヘルプ窓口業務が十分機能しておらず、ユニットセンターにおいて効率的に業務が行われるよう、重点的に改善していくことが望ましい。
- ユニットセンターが自らの運営を見直し、改善を図っていくため、リクルートやデータ入力方法、広報活動等について、他のユニットセンターの経験やノウハウを情報共有できる機会を、適宜提供することが望ましい。

2-3 メディカルサポートセンター

- フォローアップや詳細調査の具体的内容の検討が予定より遅れ、調査に間に合うぎりぎりのタイミングとなっており、ユニットセンター等における準備に十分時間がとれない状況となっていたが、体制の見直しが進められている。これらの作業が遅れることなく進むよう、長期にわたる体制の確保が不可欠であり、そのための努力を継続すべきである。
- 全国の小児科や産婦人科の臨床医等との意見交換や議論を通じてフォローアップ計画の検討を進め、医学的支援を行うことを期待する。

2-4 ユニットセンター

(1) 北海道ユニットセンター

- リクルート目標数には達していないが、現状分析に基づき具体的な改善策が検討されており、今後、リクルート数の伸びが見込まれる。
- 調査対象者への声かけが十分でないことにより、リクルートの十分な確保が困難となっていることから、体制を整備し対応していくことが望ましい。

(2) 宮城ユニットセンター

- 自治体や医療機関、地域医師会等との連携が十分図られ、毎日のリクルート状況をスタッフが速やかに集約・情報共有できる体制が整っていることなどから、リクルートが順調に進められ、目標数を上回る状況を維持している。

(3) 福島ユニットセンター

- リクルートが芳しくない状況にあるが、東日本大震災の影響があると考えられる。
- リクルート数の確保を図るため、声かけ漏れをできる限り減らしていくことが望まれる。そのため、医療機関ごとの声かけ率の把握をきめ細かく行うことが望まれる。
- 協力医療機関の職員がRCとしてリクルートを行っており、そのサポートについて検討を進めることが望まれる。
- 震災後、避難や転居による連絡先の不明な者が増加しており、フォローアップの方法を検討することが望まれる。

(4) 千葉ユニットセンター

- RC数が比較的少ないことなどから、リクルートが芳しくなく、かなりの改善が必要な状況にある。医療関係の資格のない者や事務職員の活用によりRCを確保するなど、体制を強化することが望ましい。
- 土曜や夕方以降の診療時間帯において、調査対象者への声かけが十分でないことにより、リクルートの十分な確保が困難となっていることから、体制を整備し対応していくことが望ましい。

(5) 神奈川ユニットセンター

- 都市部では協力医療機関において調査対象者以外の妊婦も多い傾向があり、医療機関内のリクルートが困難であることや、調査地区外の医療機関にも妊婦が分散して受診する傾向があることなどにより、リクルートが芳しくない状況にある。都市部のユニットセンターと情報共有を行いながら自己分析を行い、協力医療機関を増やすなど、具体的な改善策を見出すことが望ましい。
- RCの入れ替わりが多くあり、調査スタッフの安定的な確保や調査スタッフ間の情報共有の機会の拡充につとめるなど士気を高める工夫を行うことが望ましい。
- 行政の協力意識が低下しないよう、定期的に情報交換の場を持つなど、適宜働きかけていくことが望ましい。

(6-1) 甲信ユニットセンター（山梨大学）

- リクルートは概ね順調に進んでいるが、目標数には達していない状況にある。医療機関ごとに十分な分析や改善策の検討がなされている。

(6-2) 甲信サブユニットセンター（信州大学）

- リクルート目標数には達していないが、医療機関ごとに十分な分析や改善策の検討がなされている。リクルート数をさらに確保するため、すべての調査対象者への声かけを徹底することが望ましい。

(7) 富山ユニットセンター

- リクルート目標数には達していない状況にあるが、分娩数の多い大規模病院や新規開院との協力体制の構築、RCと医師との連携の強化、RCのスキルアップ等の今後の改善策により、リクルート数増加が見込まれる。
- RC間のコミュニケーション不足が懸念され、定期的に情報交換会を設けるなど、現場の課題やRCの経験を共有する機会を拡充することが望ましい。

(8) 愛知ユニットセンター

- RC数が比較的少ないこと等から、リクルート目標数に達していない状況にある。必要な人員を確保することが望ましい。
- 協力医療機関ごとにリクルートの状況をきめ細かく把握し、改善策を検討していることは評価される。これらの改善策を踏まえ、声かけ率の低い医療機関に対して重点的に対策を講じ、リクルート数を確保することが望ましい。

(9) 京都ユニットセンター

- リクルート状況が芳しくなく、かなりの改善が必要な状況にある。
- 3地域における組織体制（責任体制、指揮系統の明確性、情報共有体制等）を整備し、調査スタッフの確保を含め、安定的な実施体制の確保に努めることが望ましい。
- 母子健康手帳発行窓口を利用して声掛けは概ね順調に行われているが、同意率が目標に達しておらず、同意率を高めるための改善策を講じることが望まれる。
- また、同意書未提出者や質問票未提出者に対するフォローアップが十分でなく、改善が望まれる。

(10) 大阪ユニットセンター

- 医療機関ごとに十分な分析や改善策の検討がなされ、リクルートは順調に進められている。

(11) 兵庫ユニットセンター

- リクルート目標数には達していないが、分娩を取り扱わないクリニックにおけるリクルートを開始したことや、RC間の情報交換を図ったことにより、リクルート状況について改善の効果が見られている。さらなる課題の把握や改善策の実施が望まれる。
- 土曜や夕方以降の診療時間帯において、調査対象者への声かけが十分でないこと

により、リクルートの十分な確保が困難となっていることから、体制を整備し対応していくことが望ましい。

- RCの入れ替わりが多くあり、調査スタッフの安定的な確保や調査スタッフ間の情報共有の機会の拡充につとめるなど士気を高める工夫を行うことが望ましい。

(12) 鳥取ユニットセンター

- 医療機関ごとに十分な分析や改善策の検討がなされ、リクルートは順調に進められている。

(13) 高知ユニットセンター

- 医療機関ごとに十分な分析や改善策の検討がなされ、リクルートは順調に進められている。

(14) -1 福岡ユニットセンター 産業医大サブユニットセンター

- リクルートは概ね順調に進められているが、目標数には達していない状況にある。マンパワー不足により質問票のデータ入力が遅延しており、人員の確保や体制の見直しなどを検討することが望ましい。

(14) -2 福岡ユニットセンター 九州大サブユニットセンター

- 2つの協力医療機関における閉院や移転の影響を受けて、リクルート数が目標に達していない。引き続き、目標に達するよう地域の調査体制を見直し、改善を図ることが望ましい。

(15) 南九州・沖縄ユニットセンター

- リクルートは概ね順調に進められているが、目標数には達していない状況にある。天草地域においては、さらなる医療機関や医療関係者との連携を図ることにより、リクルートの確保が望まれる。
- 調査地区が広域であることから、各地域の事務局（大学）や現場とさらなる連携を図ることが望ましい。